

## 薩南諸島における伝承的薬用及び毒性植物調査報告 そのⅠ.種子島, 屋久島, 口永良部島, トカラ列島

著者	東 四郎, 阿部 美紀子, 緒方 信一, 飛田 洋, 横田 和登
雑誌名	鹿児島大学理学部紀要. 地学・生物学
巻	8
ページ	93-113
別言語のタイトル	Traditional Medicinal and Poisonous Plants in the Satsunan Islands Part I. Tanegashima, Yakushima, Kuchierabujima and Tokara Islands.
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/00001700">http://hdl.handle.net/10232/00001700</a>

## 薩南諸島における伝承的薬用及び毒性植物調査報告

その I. 種子島, 屋久島, 口永良部島, トカラ列島

東 四郎\*・阿部美紀子\*・緒方 信一\*\*  
飛田 洋\*\*\*・横田 和登\*

(1975年9月30日受理)

Traditional Medicinal and Poisonous Plants  
in the Satsunan Islands

Part I. Tanegashima, Yakushima, Kuchierabujima  
and Tokara Islands.

Shiro HIGASHI\*, Mikiko ABE\*, Shinichi OGATA\*\*,  
Hiroshi TOBITA\*\*\* and Kazunori YOKOTA\*

### Abstract

All the informations, obtained through hearing from the inhabitants on the local names, distribution and traditional way to utilize the medicinal and poisonous plants living in the Satsunan Islands were described systematically.

This represents the first step of study on the screening of antimicrobial substances contained in the plants treated in the present article.

### 緒 言

鹿児島県は多くの離島をもち、各島は文化的にも、また動・植物学的にもそれぞれ興味ある個有性が存在する。特に本調査を基礎として植物中に含まれる抗菌物質のスクリーニングを行う上には、伝承されている生薬に関する豊富な話題が得られるものと判断した。薩南諸島の有用植物については植物分類学的立場から、内藤<sup>(1)</sup>、初島<sup>(2)</sup>らの報告があるが、本報告は抗菌物質の抽出単離という観点から直接住民との対話より得られた事柄を収録した。調査は1973年～1974年にかけて各島を巡り、方名と実際の植物種名との照合を行い、その用法についても記載した。本編は第一報として、種子島、屋久島、口永良部島、トカラ列島に関するものだけをまとめた。

### 調 査 方 法

調査は予め疾病に関する項目（切傷、火傷、皮膚病、破傷風、ヒエ抜き、眼・耳・鼻の疾患、

\* 鹿児島大学理学部生物学教室 Department of Biology, Faculty of Science, Kagoshima University, Kagoshima.

\*\* 北九州市役所公害課勤務 Section of Environmental Pollution Control, Kitakyushu City Office, Fukuoka.

\*\*\* 宮崎県北諸郡山之口中学校教諭 Yamanokuchi Junior High School, Kitamorokata, Miyazaki.

胃腸病, 肝・腎臓病, 咳止め, 解熱, 風邪, 癌, 血圧, 婦人病, その他) をあげ, また, 毒性植物に関する項目 (人畜に毒, 魚毒), 食用にするもの, その他本報告の目的とは直接関係のない生活用具等に関するものも含めて, 住民より口述してもらい記録した。

植物の方名は各島, 地域, 及び話題提供者の年齢によって少しずつ異なったが, 聴聞したすべてを記載した。また, 方名で登場し, 実際の植物名と照合出来るものと不可能なものがあったが, 植物名の不明なものについてもすべて記載することとした。

## 調 査 結 果

### Schizaeaceae カニクサ科

*Lygodium japonium* Swartz (カニクサ)

屋久島 麦生, タングサ (地上部の黒焼と種子油を混ぜ患部に塗る一皮膚病)。栗生, タンカズラ (全草一皮膚病)。永田, タンガズラ (全草の黒焼と種子油を混ぜ患部に塗る一皮膚病)。

平 島 タニカズラ (皮膚病)。

### Cycadaceae ソテツ科

*Cycas revoluta* Thunb. (ソテツ)

屋久島 船行 (葉一切傷)。永田 (幹をけずり種子油と混ぜ塗る一破傷風)。宮ノ浦 (葉を飯粒と練って貼る一ヒエ抜き)。栗生 (皮の黒焼を用いる一切傷)。小瀬田 (葉をたたいて用いる一ヒエ抜き)。

中之島 (実を用いる一切傷)。

平 島 (実を用いる一切傷, 食用)。

諏訪之瀬島 (綿毛を用いる一切傷。実を用いる一ヒエ抜き)。

口之島 (実を用いる一皮膚病, 食用)。

宝 島 ショテツ (実は毒である)。

### Podocarpaceae マキ科

*Podocarpus macrophylla* D. Don (イヌマキ)

屋久島 宮ノ浦, ヒトツバ (オオバコ, スギの形成層と共に煎飲一肝臓病)。船行, ヒトツバ (葉を煎飲一肝臓病)。楠川, ヒトツバ (スギの形成層と煎飲一肝臓病)。

口之島 ヒトツバ, ヒトツバギ (根を焼酎に漬けて飲む)。

平 島 (実を食用にする)。

小宝島 ヒトツバ (実は食用。他に仏事, 神事などに使用)。

### Pinaceae マツ科

*Pinus thunbergii* Parl. (クロマツ)

屋久島 永田, マツ (マツヤニを切傷に用いる。葉の汁を飲む一胃腸病)。麦生, マツ (マツヤニを飲む一皮膚病)。船行, マツ (マツヤニを飲む一皮膚病)。永久保, マツ (マツヤニを飲む一胃腸病)。

黒 島 片泊, マツ (マツヤニを食用とする)。

### Taxodiaceae スギ科

*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ)

屋久島 宮ノ浦 (形成層とオオバコ, イヌマキと共に煎飲一肝臓病)。楠川 (形成層とイ

ヌマキと煎飲一肝臓病)。

硫黄島 (若葉を焼き煙を患部にあてる)。

**Saururaceae** ドクダミ科

*Houttuynia cordata* Thunb. (ドクダミ)

種子島 西野, コーネングサ, バンドウグサ, バンドウ (切傷。火傷。皮膚病)。大川町, ガラップグサ (皮膚病)。西之表 (皮膚病)。平山 (皮膚病)。

屋久島 宮ノ浦 (葉をもんでつける一切傷)。一湊, ガラップグサ, ガップグサ (葉を皮膚病に用いる)。高平部落, ガラップグサ (皮膚病)。吉田, ガップグサ (葉をもんでつける一皮膚病)。小瀬田, ガラップグサ (葉を用いる一皮膚病)。栗生 (全草一皮膚病, 胃腸病)。麦生, ガラップグサ (地上部一皮膚病)。永田, ガラップグサ (葉を患部に貼る一皮膚病)。永久保, ガラップグサ (ヒエ抜き, 胃腸病)。楠川, クサジョウグサ (ヒエ抜き)。志戸子, ガラップグサ (煎じて用いる一咳止め)。

口永良部島 本村, ガラップグサ (皮膚病。蓄膿症。地上部を茶代わりに飲む一血圧降下)。

硫黄島 ガラップグサ (皮膚病)。

竹島 ザクログサ (皮膚病)。

黒島 ザクログサ, ガラップグサ (皮膚病)。

中之島 ガラップグサ (皮膚病)。

悪石島 (煎飲する一糖尿病)。

*Saururus chinensis* Baill. (カタシログサ)

種子島 国上, ガラップグサ (地上部を煎じて用いる一ぢ疾)

口之島 ガラップグサ (皮膚病)。

平島 (頭痛)。

**Myricaceae** ヤマモモ科

*Myrica rubra* Sieb. et Zucc. (ヤマモモ)

中之島 (樹皮を煎飲一打身, ねんご)。

小宝島 (実を食用とする)。

**Fagaceae** ブナ科

*Quercus acuta* Thunb. (アカガシ)

屋久島 栗生 (樹皮一胃腸病)。

*Shiia cuspidata* Makino (ツブラジイ)

屋久島 麦生, シイノキ (樹皮を染料にする)。

**Moraceae** クワ科

*Ficus wightiana* Wall. (アコウ)

屋久島 麦生 (樹皮を煎飲一血圧降下)。一湊, アコンキ (根を煎じて用いる一打身)。

口永良部島 本村, アコ (樹皮を用いる一打身)。

竹島 アコノキ (葉, 樹皮を煎飲一打身)。

悪石島 アコウモリ (樹皮を煎飲一打身)。

平島 (幹でセイロをつくる)。

*Morus bombycis* Koidz. (クワ)

小 宝 島 (実を食用とする)。

*Ficus pumila* L. (オオイタビ)

黒 島 ヒラケタブ, ヒラケブツ (実を食用とする)。

小 宝 島 ショウキタンポ (家畜の飼料)。

*Ficus retusa* L. (ガジュマル)

平 島 (家畜の飼料)。

*Morus australis* Poir. (シマグワ)

口 之 島 (筑前ビワの材に用いる)。

#### Urticaceae イラクサ科

*Boehmeria nivea* Gaud. (カラムシ)

竹 島 カランハ, カラノネ (根を皮膚病, ヒエ抜きに用いる。エビの殻, 飯粒と練り, 破傷風に用いる)。

小 宝 島 オノハ (家畜の飼料)。

#### Loranthaceae ヤドリギ科

*Viscum album* L. var. *lutescens* Makino (ヤドリギ)

屋 久 島 永田 (咳止めに用いる)。

#### Polygonaceae タデ科

*Polygonum thunbergii* Sieb. et Zucc. (ミゾソバ)

種 子 島 西野, イボンベ (食用にする)。平山, イボンベ (若芽を食用にする)。

屋 久 島 小瀬田, イモンメ (食用にする)。

口永良部島 本村, イモメ (新芽を食用にする)。

竹 島 スズメノハ (実を食用にする)。

*Rumex acetosa* L. (スイバ)

中 之 島 (皮膚病)。

*Rumex japonicus* Houttuyn (ギシギシ)

口永良部島 本村 (根一皮膚病)。

黒 島 大里, シジ (根一皮膚病)。

*Fagopyrum esculentum* Moench (ソバ)

種 子 島 国上 (ソバ粉をヒエ抜きに用いる)。

*Polygonum blumei* Meisn. (イヌタデ)

種 子 島 茎永, タデ (魚毒)。西之表, タデ (皮をたたいて川に流す一魚毒)。

口永良部島 本村, タデグサ (牛が食べない)。

悪 石 島 タデ (魚毒)。

小 宝 島 タデ (魚毒)。

宝 島 タデ (魚毒)。

*Polygonum cuspidatum* Sieb. et Zucc. (イタドリ)

平 島 スメガラ (家畜の病気に効)。

#### Magnoliaceae モクレン科

*Illicium religiosum* Sieb. et Zucc. (シキミ)

屋 久 島 船行, コウノハナ (実をサルの呼び餌に用いる)。栗生, シシケギ, シキビ (家

畜のダニ，シラミ駆除に用いる。鹿は食べない。麦生，コウノハナ，シキビ（葉を仏事，神事に用いる）。志戸子，シキビ（仏事，神事）。永田，コウノキ（仏事，神事）。

黒 島 片泊，コウノキ（皮を魚毒に用いる）。

*Kadsura japonica* Dunal (サネカズラ)

黒 島 フノリカズラ，ベンカズラ（整髪料として用いる）。

### Ranunculaceae キンポウゲ科

*Coptis japonica* Makino (オオレン)

屋 久 島 宮ノ浦（胃腸病に用いる）。

*Coptis quinquefolia* Miq. var. *pedatoquinquefolia* Koidz. (オオゴカヨウオオレン)

屋 久 島 永久保，チョウセンニンジン（婦人病）。一湊，カントウニンジン（関節炎）。麦生，カントウニンジン，チョウセンニンジン（万病）。高平部落，チョウセンニンジン（万病）。

竹 島 ヤマニンジン（製薬原料）。

*Clematis paniculata* Thunb. (センニンソウ)

種 子 島 国上，ウンマンハボロシ，ドクグサ（馬が食べると歯が落ちる）。西野，タカタデ（地上部を馬が食べると歯がおちる）。平山，ウマハカゲ

屋 久 島 麦生，タカタデ（全草，歯がボロボロになる）。吉田，ハカタテ（歯痛に効くが，歯がボロボロになる）。

*Ranunculus glaber* Makino (キツネノボタン)

種 子 島 平山，ドクダミ（家畜に毒）。

*Ranunculus acris* L. var. *japonicus* Maxim. (ウマノアシガタ)

屋 久 島 宮ノ浦（山羊に食べさせると毒）。船行（地上部一牛馬は食べない）。永田（葉一家畜に毒）。

### Lardizabalaceae アケビ科

*Stauntonia hexaphylla* Decne. (ムベ)

竹 島 ウンベ（実は虫下し，食用となる）。

### Berberidaceae メギ科

*Nandina domestica* Thunb. (ナンテン)

種 子 島 国上（葉一歯痛に，歯につめる。白い実のなるものが有効）。

屋 久 島 船行（葉一食あたりに汁を飲む）。

### Menispermaceae ツツラフジ科

*Stephania japonica* Miers (ハスノハカヅラ)

諏訪之瀬島 カンネ（牛の飼料）。

### Lauraceae クスノキ科

*Cinnamomum camphora* Sieb. (クスノキ)

種 子 島 西野（葉，モモ，カキ，バショウの葉と共に風呂に入れる一湯ざめしない）。

宝 島（葉，風呂に入れる一神経痛）。

*Cinnamomum sericeum* Sieb. (マルバニッケイ)

小 宝 島 ツンノキ（根から香水をとる）。

**Papaveraceae** ケシ科*Corydalis platycarpa* Makino (キケマン)

- 竹 島 クセモンノハ (家畜は食べない)。  
 黒 島 大里 (地上部を魚毒として用いる)。  
 中 之 島 シャク (魚毒)。

**Capparidaceae** フウチョウソウ科*Crataeva religiosa* Forst. (ギョボク)

- 屋 久 島 宮ノ浦 (ツマベニチョウの食草である)。  
 黒 島 アマギ (キクラゲの材にする)。

**Cruciferae** アブラナ科*Raphanus sativus* L. var. *acanthiformis* Makino (ダイコン)

- 屋 久 島 楠川 (サツマノギク, 黒砂糖, 水飴, またはハチミツと混ぜ用いる一咳止め)。

**Crassulaceae** ベンケイソウ科*Sedum bulbiferum* Makino (コモチマンネングサ)

- 黒 島 片泊, マンネングサ (切傷。地上部を飯粒と練り, 打身, ねんざに用いる)。大里 (地上部を飯粒と練り, 打身, ねんざに用いる)。

**Saxifragaceae** ユキノシタ科*Saxifraga stolonifera* Meerb. (ユキノシタ)

- 屋 久 島 一湊, ミミグサ (耳の病気に用いる)。麦生, ミミグサ (葉を耳の病気に用いる)。宮ノ浦 (葉を耳の病気に用いる)。高平部落, ミミグサ (耳の病気)。永久保, ミミグサ (耳の病気)。船行, ミミダレグサ (耳ダレ, 中耳炎に用いる)。吉田, ミミグサ (汁を耳に入れる一耳の病気)。楠川 (耳の病気)。栗生, ミミグサ (耳の病気)。永田, ミミグサ (耳の病気)。  
 口永良部島 本村, ミミグサ, ミミタデ (耳の病気)。  
 黒 島 片泊, ミミグサ (耳の病気)。大里, ミミヤミグサ (汁を耳ダレの時に用いる)。  
 口 之 島 キジンソウ (耳炎の時用いる)。  
 中 之 島 ミミグサ (耳の病気)。  
 悪 石 島 ミミグサ (耳, 鼻の病気)。

**Pittosporaceae** トベラ科*Pittosporum tobira* Ait. (トベラ)

- 屋 久 島 小瀬田, トベラノキ (樹皮の黒焼をヒエ抜きに用いる)。麦生 (家畜の飼料)。  
 硫 黄 島 (実を煎じて皮膚病に用いる。葉を湿布一ヒエ抜き)。  
 竹 島 (樹皮を焼いてヒエ抜きに用いる)。  
 悪 石 島 (実, 樹皮の黒焼を湿布一ヒエ抜き)。  
 小 宝 島 (黒焼したものとイセエビの殻, 飯粒と練り患部に貼る一破傷風。ヒエ抜き)。  
 宝 島 (煎飲一破傷風。焼いて用いる一ヒエ抜き)。  
 諏訪之瀬島 (山羊の飼料)。

**Rosaceae** バラ科*Prunus donarium* Sieb. var. *spontanea* Makino (ヤマザクラ)

種子島 国上, サクラ (皮を風呂に入れる一皮膚病)。西之表, サクラ (皮を風呂に入れる)。

屋久島 永久保, サクラ (皮を煎じて用いる一火傷)。

*Prunus persica* Batsch. (モモ)

種子島 西野 (葉をクスノキ, カキ, パショウの葉と共に風呂に入れる一湯ざめしない)。

屋久島 小瀬田 (葉を風呂に入れる)。

*Pyrus serotina* Rehder (ナシ)

黒島 (味噌漬を用いる一破傷風)。

*Eriobotrya japonica* Lindl. (ビワ)

屋久島 船行 (葉一胃腸病)。永田 (葉一胃腸病)。永久保 (新芽一風邪)。麦生 (葉を煎飲する一腎臓病)。吉田 (古い葉を用いる一胃腸病)。

中之島 (煎飲する一胃腸病)。

*Potentilla fragarioides* L. var. *sprengeliana* Maxim. (キジムシロ)

黒島 大里 (汁を下痢止めに用いる)。

*Prunus zippeliana* Miq. (バクチノキ)

屋久島 宮ノ浦, ミズユス (樹皮を魚毒に用いる)。栗生, ミズユス (魚毒)。

*Rhaphiolepis umbellata* Makino var. *mertensii* Makino (シャリンバイ)

屋久島 船行, ヘコハチ (実は食用)。楠川, セクハチ (実は食用)。麦生, ヘコハチ (実を染料にする)。志戸子, ショコハチ (根を染料にする)。

竹島 ヘコハチ, キゴノキ, エキハバ (実は食用, 幹は染料にする)

黒島 コウリノキ, ヘコハチ, テイチギ (実を食用にする。紬の染料に利用)。

口之島 テイチギ, ヘッコング, ヘコノキ (染料)。

悪石島 アクチギ, テイチギ (魚毒)。

平島 テイチギ (樹皮を染料に用いる)。

諏訪之瀬島 (樹皮を染料に用いる)。

小宝島 アクチギ (魚毒。実は食用にする)。

宝島 アクチギ (魚毒)。

*Rubus palmatus* Thunb. forma *coptophyllus* Makino (モミジイチゴ)

小宝島 (食用にする)。

### Leguminosae マメ科

*Albizia julibrissin* Durazz. (ネムノキ)

屋久島 栗生, コウカバナ (花卉を咳止めに用いる)。一湊, コウカンハナ (関節炎)。

口永良部島 本村, コウカハナ (花卉は解熱, 実は血圧降下に用いる)。

*Phaseolus angularis* W. F. Wight (アズキ)

黒島 片泊, エイズキ (サルノコシカケと共に煎飲一咳止め, 風邪)。

*Derris trifoliata* Lour. (シイノキカズラ, デリス)

屋久島 麦生, ゲラン (魚毒)。栗生, ゲラン (魚毒)。

諏訪之瀬島 カズラ (魚毒)。

*Pueraria thunbergiana* Benth. (クズ)

屋久島 永久保, カンネンカズラ (デンプンをとる)。

黒島 片泊, カンネカズラ (根を食用とする)。

**Oxalidaceae** カタバミ科*Oxalis corniculata* L. (カタバミ)

中之島 (止血に用いる)。

**Geraniaceae** フウロウソウ科*Geranium nepalense* Sweet (ゲンノショウコ)

種子島 西野, セキリグサ (胃腸病)。西之表 (胃腸病)。平山, セキリグサ (煎飲一下痢止め)。

屋久島 一湊, セキリグサ (葉は赤痢に効く)。麦生 (赤花種が有効一胃腸病)。高平部落 (煎飲一胃腸病)。永久保, セキリグサ (下痢止め)。小瀬田 (胃腸病)。船行 (胃腸病)。吉田 (赤花種が有効一胃腸病)。志戸子 (赤花種が有効一胃腸病)。栗生, チョウグサ (胃腸病)。永田 (下痢止め)。

口永良部島 (赤花種が有効一胃腸病)。

硫黄島 (胃腸病)。

**Rutaceae** ミカン科*Xanthoxyum piperitum* DC. (サンショウ)

中之島 (魚毒)。

諏訪之瀬島 サンショ (魚毒)。

*Citrus unshiu* Marcov. (ウンシュウミカン)

屋久島 船行, ミカン (果皮を胃腸病, 蚊とりに用いる。また, 風呂に入れる)。宮ノ浦, ミカン (咳止め)。栗生, ミカン (果皮を蚊とりに用いる)。

硫黄島 ミカン (風邪)。

小宝島 ミカン (薪にするな)。

*Fortunella japonica* Swingle var. *margarita* Makino (キンカン)

屋久島 宮ノ浦 (咳止め)。

*Citrus aurantium* L. var. *daidai* Makino (ダイダイ)

中之島 (風邪)。

**Meliaceae** センダン科*Melia azedarach* L. var. *japonica* Makino (センダン)

屋久島 永久保 (樹皮を虫下しに用いる)。

口永良部島 本村 (樹皮を虫下しに用いる)。

宝 島 (根を虫下しに用いる)。

**Euphorbiaceae** トウダイグサ科*Euphorbia helioscopia* L. (トウダイグサ)

小宝島 (家畜に毒)。

*Euphorbia jolkini* Boiss. (イワタイゲキ)

平 島 ヤギクサ (魚毒)。

*Mallotus japonicus* Muell. Arg. (アカメガシワ)

黒 島 カシワギ (キクラゲの材木に用いる)。

**Buxaceae** ツゲ科*Buxus microphylla* Sieb. et. Zucc. var. *suffruticosa* Makino (ツゲ)

小 宝 島 (仏事, 神事に用いる)。

**Aquifoliaceae** モチノキ科

*Ilex latifolia* Thunb. (タラヨウ)

黒 島 ヤンモチ (魚毒)。

**Balsaminaceae** ツリフネソウ科

*Impatiens balsamina* L. (ホウセンカ)

屋 久 島 高平部落, エンガ (地上部を切傷に用いる)。小瀬田 (切傷)。船行, ホウサイ (花を染料にする)。

口永良部島 本村, トビシャゴ (止血)。

黒 島 片泊 (葉をつぶして切傷に用いる)。大里 (葉を塩でもんで切傷に用いる)。

口 之 島 カマクラ (葉を切傷, 皮膚病に用いる)。

中 之 島 カマクラ (葉を切傷, 火傷, 皮膚病に用いる)。

悪 石 島 (葉を切傷に用いる)。

宝 島 トビシャゴ (葉を切傷に用いる)。

**Vitaceae** ブドウ科

*Ampelopsis brevipedunculata* Trautv. (ノブドウ)

種 子 島 国上, カズラ (樹液を眼病にさす)。西之表, ガレブ (眼病)。平山, インガラビ (眼病)。

屋 久 島 一湊, カンネカズラ (眼病)。麦生, ガレブ, ヤマガイブ (眼病)。高平部落, ヤマブドウ, ガイブ (樹液を突目の時にさす。実は食用とする)。船行, ヤマブドウ (眼病)。小瀬田, カズラ (眼病)。吉田, カズラ, カラスガネブ (樹液一眼病)。楠川, ガレブ (眼病)。栗生, インガレブ (眼病)。

口永良部島 本村 (眼病)。

黒 島 片泊, ガイブ (眼病)。大里, インガレブ (眼病)。

口 之 島 ヤマブドウ (実を食用にする)。

中 之 島 メカズラ (眼病・風邪)。

平 島 ヤマブドウ (樹液を突目, 皮膚病に用いる)。

諏訪之瀬島 カネブカズラ (眼病)。

宝 島 ガレブ (眼病)。

**Sterculiaceae** アオギリ科

*Firmiana platanifolia* Schott et Endl. (アオギリ)

種 子 島 西野, キリノキ (樹皮, 葉を火傷に用いる)。

**Theaceae** ツバキ科

*Camellia japonica* L. (ツバキ)

屋 久 島 栗生 (葉の黒焼を飯粒と練り, ヒエ抜きに用いる)。永田 (葉の黒焼を飯粒と練り, ヒエ抜きに用いる)。船行 (マムシに咬まれた時)。

硫 黄 島 (止血。ツバキ油としてやけど, 耳の病気に用いる)。

*Ternstroemia japonica* Thunb. (モッコク)

屋 久 島 永田 (家畜に毒)。一湊, モハウノキ (家畜に毒)。麦生, モハウウ (樹皮を木灰

と混ぜて流す一魚毒)。高平部落, モホウノキ, キンゴノキ (樹皮を木灰と混ぜて流す一魚毒)。吉田, モホウノキ (魚を焼くな)。永久保 (魚毒)。小瀬田, モホウノキ (魚毒)。栗生, モホウノキ (幹, 葉を石でたたいて流す一魚毒)。船行, キンゴノキ (魚毒)。志戸子, モホウノキ (染料にする)。

硫黄島 (魚毒)。

黒島 ブフォ (樹皮, 材は家畜に毒)。大里, ブフォ (樹皮, 材は魚毒。魚を焼くな)。

口之島 アカモム (家畜に毒。魚を焼くな)。

中之島 アカモモ (魚毒)。

悪石島 アカモモ (魚毒)。

*Thea sinensis* L. (チャ)

屋久島 栗生 (防虫)。

#### Guttiferae オトギリソウ科

*Garcinia spicata* Hook. f. (フクギ)

屋久島 麦生 (樹皮を下駄の材料にする)。

#### Violaceae スミレ科

*Viola mandshurica* W. Becker (スミレ)

硫黄島 コマビキ (皮膚病。すりつぶして湿布, 打身, ねんざ)。

#### Elaeagnaceae グミ科

*Elaeagnus pungens* Thunb. (ナワシログミ)

種子島 茎永, グミ (実一淋病)。

屋久島 永田, グミ (樹皮一破傷風)。一湊, サガリグミ (黒焼と飯粒を練り湿布一ヒエ抜き)。永久保, グミ (樹皮一ヒエ抜き)。小瀬田, グミ (樹皮, エビの殻の黒焼, 飯粒と練り湿布一ヒエ抜き)。吉田, グミ (葉一腎臓病)。

竹島 イグミ (煎飲一咳止め, 風邪)。

黒島 片泊, グミ (樹皮を煎じて用いる一咳止め)。

口之島 グミ (樹皮, アカヒバの陰干と混ぜ煎飲一破傷風。ヒエ抜き)。

中之島 グミ (樹皮, 葉を煎飲一ヒエ抜き)。

諏訪之瀬島 グミ (樹皮を煎飲一ヒエ抜き)。

悪石島 グミ (樹皮を煎飲一ヒエ抜き)。

宝島 グミ (煎飲一破傷風。ヒエ抜き)。

小宝島 グミ (枝を煎飲一破傷風。家畜の病気)。

#### Lythraceae ミソハギ科

*Lythrum anceps* Makino (ミソハギ)

口之島 ソウハギ (ものもらいの時, 枝でたたく)。

#### Punicaceae ザクロ科

*Punica granatum* L. (ザクロ)

屋久島 ジャクロ (虫下し)。

竹島 (肺病, 肋膜炎)。

## Umbelliferae セリ科

*Centella asiatica* Urb. (ツボクサ)

種子島 西野, ツボグサ (地上部一止血。火傷)。

口永良部島 本村 (虫下し)。

口之島 (止血)。

平島 (葉一止血に用いる)。

*Hydrocotyle sibthorpioides* Lam. (チドメグサ)

屋久島 麦生 (止血)。高平部落 (地上部一止血)。船行 (止血)。

中之島 ツボクサ (葉一切傷)。

悪石島 スミガラ (葉一切傷)。

*Oenanthe stolonifera* DC. (セリ)

屋久島 志戸子, セー (黒焼, エビ殻, 飯粒と練って用いる一切傷)。永田 (全草一破傷風)。

宝島 セイ (葉を煎飲一破傷風。ヒエ抜き。胃腸病)。

小宝島 セイ (胃腸病)。

*Peucedanum japonicum* Thunb. (ボタンボウフウ)

竹島 ハマギ (若葉を食用にする)。

小宝島 サクノハ (根一胃腸病。肋膜)。

宝島 サク (魚毒)。

*Cryptotaenia canadensis* DC. (ミツバ)

屋久島 一湊 (豚に食わず)。

黒島 (食用にする)。

*Angelica kiusiana* Maxim. (ハマウド)

口之島 ハマタズ (根一魚毒。牛の飼料)。

*Daucus carota* L. var. *sativa* DC. (ニンジン)

竹島 (根をすりつぶして用いる一内出血)。

## Ericaceae ツツジ科

*Pieris japonica* D. Don (アセビ)

屋久島 宮ノ浦 (家畜に毒)。楠川, ジャクナン (家畜に毒)。永田, ジャクナン (花一家畜に毒)。

*Rhododendron eriocarpum* Nakai (マルバサツキ)

口之島 (山羊が食べると死ぬ)。

中之島 ツツジ (山羊が食べると死ぬ)。

平島 ツツジ (山羊が食べると死ぬ)。

悪石島 ツツジ (山羊が食べると死ぬ)。

## Primulaceae サクラソウ科

*Anagallis arvensis* L. forma *coerulea* Baumg. (ルリハコベ)

黒島 ミツンゴグサ (地上部一魚毒)。

口之島 (ハマウドと共に流す一魚毒)。

中之島 コークサ, コーツケクサ (魚毒)。

平島 ドクナガシ (魚毒)。

悪石島 ミズクサ (魚毒)。

小宝島 ミズクサ (魚毒)。

宝島 ミズクサ (魚毒)。

*Lysimachia mauritiana* Lam. (ハマボッス)

宝島 ナデシコ (魚毒)。

#### Ebenaceae カキノキ科

*Diospyros kaki* Thunb. (カキ)

種子島 西野 (葉, 風呂に入れる一湯ざめしない)。

屋久島 船行 (シブガキで魚網を染める)。

宝島 (葉を煎飲一風邪)。

#### Oleaceae モクセイ科

*Ligustrum japonicum* Thunb. (ネズミモチ)

黒島 大里, イブタ (樹皮, 幹, 実を煎じて用いる一皮膚病。胃腸病)。

*Osmanthus insularis* Koidz. (ナタオレノキ)

小宝島 ナタオレ (仏事, 神事に用いる)。

宝島 ナタオレ (葉の黒焼を破傷風に用いる)。

#### Loganiaceae フジウツギ科

*Buddleja curviflora* Hook. et Arn. f. *venenifera* (Mak.) Yamazaki (ウラジロフジウツギ)

種子島 西野, ウツギ (魚毒)。

屋久島 永田 (葉を内臓病に用いる)。一湊, トマリグ (家畜には毒。鳥もとまらない)。  
麦生, ウツギ (葉, 樹皮を魚毒に用いる)。宮ノ浦, ウツギ (魚毒)。高平部落,  
ウツギ, ウチギ (魚毒)。吉田, ウトンキ (魚毒)。

竹島 ウツノキ (根を魚毒に用いる)。

口之島 コウジキ (魚を焼く)。

諏訪之瀬島 シオギ (牛は食べない)。

#### Gentianaceae リンドウ科

*Swertia japonica* Makino (センブリ)

平島 (煎飲一胃腸病)。

悪石島 (煎飲一胃腸病)。

*Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* Maxim. (リンドウ)

黒島 (打身, ねんぎに用いる)。

#### Apocynaceae キョウチクトウ科

*Nerium indicum* Mill. (キョウチクトウ)

屋久島 麦生 (家畜には毒)。永久保 (家畜には毒)。永田 (葉は家畜に毒)。

*Trachelospermum asiaticum* Nakai (テイカカズラ)

小宝島 マサカキカズラ (竹細工の材料)。

#### Asclepiadaceae カガイモ科

*Asclepias curassavica* L. (トウワタ)

悪石島 トウグサ (家畜には毒)。

小 宝 島 (家畜には毒)。

### Convolvulaceae ヒルガオ科

*Ipomoea batatas* Lam. var. *edulis* Makino (サツマイモ)

種 子 島 大川町 (切傷)。

竹 島 カライモ (根をすりつぶして用いる—ヒエ抜き)。

*Ipomoea congesta* R. Br. (ノアサガオ)

屋 久 島 小瀬田, ツヅラ (根を煎じる—破傷風)。永田, ツヅラ, カズラ (葉, 茎を煎じる—破傷風)。麦生, ツヅラ (細工物の材料にする)。

黒 島 片泊, ツヅラ (根を煎じる—風邪)。大里, ツヅラ (神経痛。細工物の材料)。

### Verbenaceae クマツヅラ科

*Clerodendron trichotomum* Thunb. (クサギ)

種 子 島 大川 (葉を食す—胃腸病)。西野 (葉を食用とする)。

屋 久 島 船行 (食す—胃腸病)。楠川 (芽を下痢止めとする)。

黒 島 (新芽を食用とする)。

悪 石 島 (煎飲—胃腸病)。

*Vitex rotundifolia* L. fil. (ハマゴウ)

種 子 島 国上, ハマカズラ (いぶして蚊とりに用いる)。

屋 久 島 宮ノ浦, カクスベグサ (茎を蚊とりに用いる)。

平 島 ホウノキ (蚊とりに)。

*Callicarpa japonica* Thunb. (ムラサキシキブ)

小 宝 島 ゴメゴメノキ (弓をつくる)。

### Labiatae シソ科

*Mentha arvensis* L. var. *piperascens* Malinv. (ハッカ)

悪 石 島 (汁を眼病に用いる)。

*Ajuga decumbens* Thunb. (キラソウ)

黒 島 イシャコロシ (汁を打身, ねんざに使用)。

口 之 島 (煎飲する—神経痛)。

### Solanaceae ナス科

*Solanum melongena* L. (ナス)

黒 島 片泊 (葉—耳ダレの時用いる)。

*Datura metel* L. (チョウセンアサガオ)

屋 久 島 麦生 (葉はぜんそくに効く。また, 麻酔薬としても用いる)。

*Lycium chinense* Mill. (クコ)

種 子 島 国上 (血圧降下)。

*Nicotiana tabacum* L. (タバコ)

硫 黄 島 (キザミタバコを切傷の時用いる)。

竹 島 (葉とエビ殻, 飯粒と共に練る—ヒエ抜き)。

*Solanum tuberosum* L. (ジャガイモ)

中 之 島 (すって湿布—扁桃腺)。

*Solanum nigrum* L. (イヌホウズキ)

平 島 ヤマコショウ (ママゴト遊びの材料)。

**Acanthaceae キツネノマゴ科***Justicia procumbens* L. (キツネノマゴ)

宝 島 (魚毒)。

*Strobilanthes cusia* O. Kuntze (リュウキュウアイ)

屋 久 島 一湊 (染料に用いる)。

**Plantaginaceae オオバコ科***Plantago asiatica* L. (オオバコ)

種 子 島 西野, オンバコ, オンバク (葉を焼いて付ける一皮膚病)。平山, オンバク (葉とツワブキの葉をもんでつける一皮膚病)。

屋 久 島 一湊, ウンバ, オンバコ (葉を皮膚病, 腎臓病に用いる)。吉田, オンバク (葉は皮膚病, 風邪に用いる)。永久保 (皮膚病, 風邪)。永田, オンバコ, オンバン (葉を焼いて皮膚病。全草を煎じて胃腸病)。宮ノ浦 (煎じて腹痛に。咳止め。イヌマキ, スギと共に煎じ, 内臓病に)。麦生, オンバク (咳止め)。高平部落 (咳止め)。船行, オンバク (咳止め)。小瀬田, オンバコ (咳止め)。志戸子, オンバコ (煎じて咳止め)。楠川, オンバク (淋病)。

口永良部島 本村, オオボク (葉は皮膚病, 煎じて胃腸病)。

竹 島 オンバク (葉一皮膚病, 咳止め)。

黒 島 片泊, オンバコ (葉を焼いて皮膚病)。

口 之 島 オンバク (皮膚病, 胃腸病, ヒエ抜き)。

中 之 島 スイバ, オンバクサ, オンバコ (切傷。葉を焼いて皮膚病に。陰干を煎飲一腎臓病)。

平 島 オンバク (皮膚病)。

悪 石 島 オンバク (胃腸病。婦人病)。

小 宝 島 (皮膚病)。

**Rubiaceae アカネ科***Paederia scandens* Merrill (ヘクソカズラ)

口永良部島 本村, ヘコカズラ (葉を止血に用いる)。

中 之 島 (葉を切傷に用いる)。

平 島 ヘクソカズラ (山羊がよく食べる)。

諏訪之瀬島 ヘフソカズラ (浅い切傷に用いる)。

宝 島 ボーカズラ, ハマヘクソカズラ (葉を切傷に用いる)。

*Gardenia jasminoides* Ellis f. *grandiflora* Makino (クチナシ)

屋 久 島 高平部落 (実を手荒れに)。麦生 (実を煎飲一風邪。実と卵, 酢, メリケン粉と練り打身に用いる)。船行 (実を肝臓病)。小瀬田 (実をねんざに用いる)。

口永良部島 本村 (実をねんざに用いる)。

黒 島 大里 (キラソウ, リンドウとメリケン粉で練って用いる一打身, ねんざ)。

中 之 島 (実一打身)。

平 島 (実をメリケン粉, 酢又は焼酎と混ぜ用いる一打身, ねんざ)。

**Caprifoliaceae スイカズラ科**

*Sambucus chinensis* Lindl. (ソクズ)

口之島 タズ (便秘。家畜の下剤。魚毒)。

*Viburnum awabuki* K. Koch (サンゴジュ)

中之島 (実を魚毒に用いる)。

悪石島 マーフラ, ヤウフクラ (魚毒)。

**Cucurbitaceae ウリ科**

*Cucumis sativus* L. (キュウリ)

中之島 (火傷)。

*Luffa cylindrica* Roem. (ヘチマ)

平島 (葉の汁を耳病に用いる)。

*Momordica charantia* L. (ツルレイシ)

平島 ニガウリ (胃腸病)。

*Lagenaria leucantha* Rosby var. *gourda* Makino (ヒョウタン)

中之島 (煎飲する一腎臓病)。

*Benincasa cerifera* Savi (トウガン)

宝島 (実の汁を飲む一腎臓病)。

*Cucurbita moschata* Duch. var. *melonaeformis* Makino (ボウブラ, カボチャ)

中之島 (家畜にイボができた時に食べさせる)。

**Compositae キク科**

*Artemisia vulgaris* L. var. *indica* Maxim. (ヨモギ)

種子島 国上 (切傷)。

屋久島 宮ノ浦 (葉をもんで切傷に用いる)。高平部落 (葉の汁を切傷に用いる)。永久保 (切傷。風呂に入れる一神経痛)。船行, フツ (止血。胃腸病。風呂に入れると湯ざめしない)。小瀬田 (葉を切傷に用いる)。栗生 (切傷。風呂に入れると湯ざめしない。防虫の効果がある)。永田, フチ (葉は切傷に用いる)。麦生 (胃腸病。風呂に入れる)。吉田, フツ (葉, 土用に収穫したものを陰干しておき胃腸病。風呂に入れる一神経痛)。一湊 (咳止め)。志戸子, フツ (煎じて咳止めに用いる)。

口永良部島 本村, フツ (止血)。

硫黄島 (胃腸病。咳止め)。

竹島 フツ, シロブチ, シロヨモギ (葉をもんで止血。咳止め。食用)。

黒島 片泊 (葉をすりつぶして切傷に)。

中之島 (切傷。煎じて肝臓病)。

平島 フツ (煎じて解熱。血圧降下)。

悪石島 フツ (止血。風邪)。

宝島 フツ (煎飲一胃腸病。解熱)。

小宝島 フツ (胃腸病。関節炎)。

*Ligularia tussilaginea* Makino (ツワブキ)

種子島 平山, ツワ (葉をもんで一切傷。皮膚病)。

屋久島 永田, ツワ (根を煎飲一切傷。葉は皮膚病。風呂に入れる)。宮ノ浦 (葉一火傷)。一湊, ツワ, フツ (皮膚病。ヒエ抜き。葉は胃腸病。風呂に入れる一腰痛)。栗

- 生(葉, 焼いて皮膚病)。吉田, ツワ(皮膚病。風呂に入れる)。永久保(胃腸病)。  
船行, ツワ, フツ(胃腸病。風呂に入れる)。楠川(胃腸病)。
- 硫黄島 ツワ, フツ(全草の汁一火傷。皮膚病。陰干を煎飲一胃腸病。咳止め)。  
口永良部島 本村, ツワ(葉一皮膚病。ぢ疾)。  
竹 島 ツワ(焼いてもむ一皮膚病)。  
黒 島 (葉一皮膚病)。  
口之島 カシワ, ツワ(葉を焼いてヒエ抜き)。  
中之島 カシワ, ツワ(葉の汁一切傷。皮膚病。葉を湿布一ヒエ抜き。火傷)。  
悪石島 ツワ(葉を切傷, 皮膚病に)。  
宝 島 ツワ, フツ(焼いて切傷。煎飲一破傷風。咳止め)。  
小宝島 (葉を焼いて皮膚病)。
- Gynura bicolor* DC. (スイゼンジナ)  
平 島 ハンダマ(産後に食べさせるとよい)。  
小宝島 バルダマ(葉一切傷)。
- Lactuca lanceolata* Makino (ホソバワダン)  
硫黄島 ニガナ, イワタカナ(胃腸病)。  
黒 島 ニガクサ(葉を食用とする)。  
中之島 ニガナ(葉を皮膚病。煎じて胃腸病。魚毒)。  
平 島 (皮膚病。胃腸病)。  
悪石島 ニガナ(煎飲一胃腸病)。  
小宝島 ニガナ(根を煎飲一胃腸病。食用)。
- Cirsium spinosum* Kitamura (オイランアザミ)  
小宝島 アザミ(根を煎飲一血圧降下)。
- Chrysanthemum satsumense* Makino (サツマノギク)  
屋久島 楠川, ノギク(ダイコン, 黒砂糖又は蜂蜜と混ぜて咳止め)。  
小宝島 ノギク(食用とする)。
- Bidens tripartita* L. (タウコギ)  
竹 島 ハイエンノクサ(風邪)。

## Gramineae イネ科

- Miscanthus sinensis* Anderss. (ススキ)  
屋久島 一湊(葉を咳止め)。  
平 島 (芯を切傷に)。  
諏訪之瀬島 (芯を切傷特に深い傷に)。
- Bambusa multiplex* Rauschel (ホウライチク)  
種子島 国上, チンチク(根を皮膚病。ヒエ抜きに)。
- Pleioblastus linearis* Nakai (リュウキュウチク)  
黒 島 片泊(竹の子を食べる一破傷風に)。
- Setaria italica* Beauv. (アワ)  
黒 島 大里, クロアワ, ハルアワ(実を種子油, ススと混ぜ一皮膚病)。
- Coix lachryma-jobi* L. (ジュズダマ)  
種子島 西野(根はヒエ抜き。腎臓病)。

平 島 (実を煎飲。皮膚病)。

*Zea mays* L. (トウモロコシ)

屋久島 永田 (ヒゲを煎飲一胃腸病, 肝臓, 腎臓病)。一湊, キビ (ヒゲを腎臓病に)。麦生, トウキビ (ヒゲを煎飲して腎臓病)。高平部落 (ヒゲを腎臓病)。永久保, トウキビ (ヒゲを腎臓病)。楠川 (実を煎じる一腎臓病)。

黒 島 大里 (実, ヒゲを煎じて腎臓病)。

中之島 トウキビ (ヒゲを煎じる一胃腸病, 腎臓病)。

*Oryza sativa* L. (イネ)

平 島 (苗, ワラを煎飲一肝臓病)。

*Arundo donax* L. var. *benghalensis* Makino (ダンチク)

屋久島 栗生, ダチク (癌。ダンゴを巻く)。船行, ダチク (皮膚病。竹の子を手にくすりつける)。永田 (葉一妊娠した家畜に食べさせてはいけない)。小瀬田 (万病)。一湊 (ダンゴを巻く)。

#### Cyperaceae カヤツリグサ科

*Cyperus rotundus* L. (ハマスゲ)

硫黄島 コウボシ (漢方薬の原料)。

小宝島 コウボシ

#### Araceae サトイモ科

*Alocasia macrorrhiza* Schott (クワズイモ)

屋久島 高平部落 (汁を手につけるとかゆくなる)。楠川 (馬の爪の傷に用いる)。

諏訪之瀬島 バジー (毒, 口, 喉が腫れ痛い)。

悪石島 イバシ (根を皮膚病に)。

#### Liliaceae ユリ科

*Allium tuberosum* Rottl. (ニラ)

種子島 大川町 (切傷)。平山 (切傷)。

屋久島 永久保 (眼病)。

中之島 (葉とカツオブシを混ぜ飲む一赤痢)。

平 島 (茎を突目に用いる)。

*Allium grayi* Regel (ノビル)

種子島 大川町 (切傷)。

*Aloe arborescens* Mill. var. *natalensis* Berger (アロエ)

種子島 西之表 (葉をやけど, 胃癌に用いる)。

屋久島 麦生 (火傷。生汁を飲む一胃腸病。歯痛)。永久保 (火傷。皮膚病。食当り)。船行 (蜂にさされた時用いる)。吉田 (葉, 切傷。火傷。胃腸病)。楠川 (葉肉を塗る一火傷)。栗生 (火傷。歯痛)。一湊 (葉の汁を塗る一火傷)。小瀬田 (胃腸病)。高平部落 (葉の汁一ムネヤケに用いる)。

口永良部島 本村 (火傷。胃腸病。肩こり)。

竹 島 (切傷。下痢止め。歯痛)。

黒 島 片泊, イシャイラズ (皮膚病。汁を胃腸病に用いる)。

口之島 (火傷。胃腸病)。

平 島 (切傷。生で食べる一胃腸病)。

悪石島 (胃腸病)。

宝 島 (切傷。火傷。胃腸病)。

小宝島 (切傷)。

*Allium sativum* L. *forma pekinense* Makino (ニンニク)

平 島 フル(根のすりおろしたものと塩を混ぜ用いる一切傷)。

*Smilax bracteata* Presl (サツマサンキライ)

悪石島 カンネカズラ (根一万病)。

*Allium bakeri* Regel (ラッキョウ)

平 島 (胃腸病)。

*Smilax china* L. (サルトリイバラ)

屋久島 高平部落, カカラ (実一サルの餌づけに用いる)。

*Hemerocallis longituba* Miq. (ノカンゾウ)

屋久島 一湊, カンロ (関節炎)。

*Lilium longiflorum* Thunb. (テッポウユリ)

屋久島 麦生, ユリ (根は食用)。楠川, ユリ (根は食用)。

小宝島 ユリ (根は食用)。

#### Amaryllidaceae ヒガンバナ科

*Crinum asiaticum* L. *var. japonicum* Baker (ハマユウ)

屋久島 宮ノ浦 (焼いてもみつける一皮膚病)。栗生 (葉一皮膚病)。永田 (葉を焼いてつける一皮膚病)。船行, ハナガミ (根を風船の代わりにする)。

硫黄島 ハマガミ, ハマガラ, シユキ (焼いて皮をはぎ酢と混ぜて用いる一皮膚病)。

竹 島 ハマガン (根一皮膚病)。

中之島 ハマガミ (葉一焼いて皮膚病に用いる)。

平 島 ハマガミ (皮膚病)。

諏訪之瀬島 サデク (葉を焼く一皮膚病)。

宝 島 (焼いて皮をはぎ用いる一皮膚病)。

小宝島 (焼いて皮をはぎ用いる一皮膚病)。

*Lycoris radiata* Herb. (ヒガンバナ)

屋久島 宮ノ浦, ネブイ (皮膚病)。

口之島 (皮膚病)。

*Narcissus tazetta* L. *var. chinensis* Roem. (スイセン)

種子島 大川町 (根一皮膚病)。

黒 島 片泊 (根一皮膚病)。

#### Dioscoreaceae ヤマノイモ科

*Dioscorea japonica* Thunb. (ヤマノイモ)

小宝島 ヤマイモ (根, ムカゴを食用とする)。

#### Musaceae バショウ科

*Musa basjoo* Sieb. (バショウ)

種子島 西野 (風呂に入れると湯ざめしない)。

- 平 島 (茎一解熱に用いる)。  
 宝 島 (芽を煎飲, 食用又は湿布をすする一解熱)。

**Zingiberaceae ショウガ科**

*Zingiber officinale* Rosc. (ショウガ)

- 屋久島 楠川 (根の汁をのどにつける一咳どめ, 風邪)。永久保 (豚に毒)。  
 中之島 (黒砂糖と混ぜ飲む一咳止め)。  
 悪石島 (根の汁と砂糖を混ぜ飲む一風邪)。

*Alpinia speciosa* K. Schum. (ゲットウ)

- 種子島 西野, マキノハ (実一血の薬。葉でダンゴを巻く)。  
 口永良部島 本村, サジン (実一胃腸病)。  
 平 島 シャニン (ダンゴを巻く)。  
 小宝島 シャニン (ダンゴを巻く)。

*Alpinia intermedia* Gagnep. (アオノクマタケラン)

- 屋久島 船行, クマタケラン (ダンゴを巻く)。  
 竹 島 マキノハ (ダンゴを巻く)。  
 小宝島 チマキノハ (ダンゴを巻く)。

**Orchidaceae ラン科**

*Liparis bicallosa* Schltr. (ユウコクラン)

- 黒 島 片泊, コクラン (煎じて胃腸病)。

*Calanthe discolor* Lindl. (エビネ)

- 諏訪之瀬島 シラカネ (家畜に毒)。

**Agaricaceae マツタケ科**

*Lentinus edodes* Sing. (シイタケ)

- 屋久島 永田 (全体, 黒焼と飯粒を練って用いる一ヒエ抜き)。  
 中之島 (エビ殻と焼き粉末にして酒と練り用いる一ヒエ抜き)。

**Polyporaceae サルノコシカケ科**

*Fomes* sp. (サルノコシカケ)

- 屋久島 小瀬田 (腎臓, 心臓病など, 万病に有効)。麦生 (癌)。高平部落 (煎飲一癌)。  
 船行 (癌)。栗生, クワナバ (癌)。永田, クワナバ (癌)。  
 黒 島 片泊, クワナバ (アズキ, 氷砂糖と共に煎飲一風邪, 咳止めに用いる)。大里,  
 クワナバ (米と煎飲一解熱)。  
 口之島 クワナバ (馬の虫下しとして用いる)。  
 中之島 クワナバ (万病。ナワシログミの樹皮と共に用いる一ヒエ抜き)。  
 平 島 クワナバ (血圧降下)。  
 小宝島 クワナバ (頭痛)。

※サルノコシカケのうち, 特にクワ (シマグワ) に生えたものをクワナバと言う。

植物名不明の分

フノクサ

- 屋久島 麦生 (切傷。全草の黒焼と混ぜ塗る一ヒエ抜き)。高平部落 (飯粒と練り塗る一

ヒエ抜き)。

アカヒバ, アカシバ

口之島 (切傷。赤花には特効あり一破傷風。陰干をグミの樹皮と煎飲一ヒエ抜き)。

ジンチョウ

硫黄島 (皮膚病)。

サボテン様の植物

硫黄島 (風邪)。

サンガッケラマ

口永良部島 (牛は食べない)。

ヤマアラシ

口之島 (牛馬は食べない)。

キンゲンハ

屋久島 一湊 (風呂に入れる)。小瀬田 (風呂に入れる一リュウマチ, 神経痛)。志戸子 (全草を風呂に入れる一神経痛)。

ジーキク

屋久島 楠川 (血液の循環をよくする)。

イツツバ

竹 島 (ねんざ)。

ベグア

屋久島 一湊 (実を食す)。

ヌンメカズラ

黒 島 (石けんの代用。装飾用)。

ナマム

小宝島 (牛が食す)。

クロマメノキ

小宝島 (薪にするな)。

## 考 察

南西諸島の一部である鹿児島県熊毛郡の種子島, 屋久島, 口永良部島, 鹿児島郡三島村の竹島, 硫黄島, 黒島, 十島村の口之島, 中之島, 諏訪之瀬島, 悪石島, 平島, 宝島, 小宝島は, 文化的にも言語学的にも, また伝統・習慣的にも, 県本土と琉球列島の間位置しているため, 植物の方名, 及びその使用法にも微妙な変化を示す。例えば, ルリハコベ *Anagallis arvensis* L. *forma coerulea* Baumg.) の汁を用いて小児が潮干帯のタイドプールにいる小魚を捕獲する習慣は奄美大島以南, 黒島, 悪石島, 宝島, 小宝島などで収録されたが, 方名は, ミツンゴグサ (黒島), ミズクサ, ミジユクサ (悪石島〜与論島), ミミジングサ (与論島) などと呼び, 一脈通ずるものがあつた。一方, ウラジロフジウツギ (*Buddleja curviflora* Hook. et Arn. *f. venenifera* (Mak.) Yamazaki) を使用して魚を捕獲することについては, 種子島全域と, 屋久島のうち種子島対岸に位置する地域では聴聞したが, 屋久島の西岸にある永田などではほとんどその習慣が無いこと等, 伝承の伝播, その持続性など, 極めて興味深いものであつた。このような伝承生薬は近代医薬の浸入, 世代の転換などにより急激に消滅しつつあり, 現に若年層には伝承されていないものが多数見聞された。

伝承された植物の効用については、例えばモッコク (*Ternstroemia japonica* Thunb.) 及びイジュ (*Schima wallichii* ssp. *liukiensis* (Nak.) Bloemb.) は建材として使用され、その材は白蟻に侵食されないとして重宝がられているが、これはこの材が殺蟻成分 (antitermitic substance) であるサポニン<sup>(3,4,5,6,7)</sup> が含まれているためである。また、このサポニンは水に易溶性で、住民の間では屋内での材木としては良いが、家屋の外装材としては使用するななど雨水によるサポニンの流失を感知している事実もあった。

その他、実際の効用としては、抗菌性に関してすぐれたものも抽出されており、以後の実験に待ちたい。

### 謝 辞

本調査にあたり、採集植物の同定を快く御指導下さいました、鹿児島大学農学部林学科、迫静男先生に衷心から感謝申し上げます。また、本調査に御協力下さいました、現野田小学校長、東久保忠先生、現脇本小学校長、橋本善友先生の御厚情は終生忘れ得ぬものでございます。

### 文 献

- (1) 内藤 喬：鹿児島民俗植物記 (1964)。
- (2) 初島住彦：奄美群島の植物相—海中公園センター調査報告・鹿児島県海中公園学術報告, 53-131 (1968)。
- (3) 島本伸一, 小野寺幸之進：農化, **15**, 496-498 (1936)。
- (4) 高橋利夫, 宮崎 信, 安江保民, 今村博之, 本田 収：木材学会誌, **9**, 59-62 (1962)。
- (5) 渡辺則利, 佐伯沙子, 住本昌之, 近藤民雄, 黒鳥四朗：木材学会誌, **12**, 236-238 (1966)。
- (6) 佐伯沙子, 住本昌之, 近藤民雄, 黒鳥四朗：木材工業, **21**, 307-311 (1966)。
- (7) 佐伯沙子, 住本昌之, 近藤民雄：木材学会誌, **14**, 110-114 (1968)。

初島住彦：琉球植物誌, 1-866 (1972)。

津田喜典, 村田弘之, 塚越順子：昭和薬科大学研究紀要, 35-87 (1972)。

本田正次, 佐藤達夫, 松田 修：日本植物方言集 (草本類篇) 日本植物友の会編, 八坂書房, (1972)。